

## 【風 光る 5月】

京都市立下京中学校  
校長 安居 昌行

### 「こころの声を聴く」

風光る5月。「志の式」「入学式」と新しい年度が始まったと思っていましたが、あっという間に1か月が経ちました。この間、全学年で朝読書や教科学習も始まりました。そのような中、1年生は教科担任制の授業や学習内容の変化に、とまどいながらも、一生懸命対応しようと頑張っている姿も見受けられます。また、体育系部活動に参加している生徒は、春季体育大会も始まり、忙しい毎日を過ごしています。連休明けには家庭訪問も終了し、3年生は修学旅行、月末には全学年定期テストもあります。

さて、下京中学校では、この一年「学習と生活」の「集団と習慣」、そして、「心とからだ」の「健康と安全」を教育活動推進のキーワードとして、校是「志きらめく～志は高く、学びは深く、出会いは広く～」のもと、学級・学年・学校づくりに力を注いでいきます。

ところで中学校では担任はもちろん、複数の教員が教科指導や生活指導、部活動等を担当します。また、生徒会活動など生徒自らが主体的に活動する場面も増えてきます。そのような人や本をはじめとする様々な「出会い」が生徒にとって人生の道を切り拓くきっかけともなることが多いのです。一方、中学生の時期は思春期とも呼ばれ、なんとなく不安であったり、悩みがあったりする時期でもあります。特に中学校生活や新しい学年にちょっと慣れてきた5月には、不安や悩みをもつ生徒も増えてきます。この時期、忙しく時間に追われる中学生活ではありますが、ぜひ、友だちや家族や地域の方々とゆっくり対話する時間をもつことも大切だと思います。

「読書にしろ対話にしろ、確かに新しい知識を獲得したり、こちらの新しい発想を刺激されたりということはある。しかし、それに加えて、知的とか感情的とか分離される以前の、人間全体として何かのインパクトを受けるということがそれに加味されてこそ、そこに生じたことが後にも生きてくるのだ。」(『こころの声を聴く』河合隼雄)

ぜひ、私たちも子どもたちのこころの声を聴くことのできる大人でありたいと思います。



〈金戒光明寺にて〉